

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	衣生活論						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活学入門						
授業の概要	衣生活学の入門として位置づけ、人と被服、社会と被服という観点から衣生活をとらえ、幅広い内容を学ぶ。被服と社会との関連、被服自体のなりたち、被服が人の心と体に及ぼす影響について習得することを目標とする。具体的に扱う内容は、被服の歴史と文化、被服の構成、被服の素材、染色、被服衛生、高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション、被服の管理と洗濯、被服の取扱いと表示、被服の廃棄とリサイクル等である。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・被服と社会とを関係づけることができる。 ・被服のなりたちについて説明することができる。 ・被服と人の心身とを関係づけることができる。 						
授業計画	第1回 自分と被服との関わりを振り返る 第2回 被服の機能と着用目的 第3回 被服の起源 第4回 被服の歴史と文化 第5回 被服の構成 第6回 被服の素材 第7回 被服の染色加工 第8回 被服の色とデザイン 第9回 被服が人体に及ぼす影響 第10回 高齢者・障害者の被服とユニバーサルファッション 第11回 被服の管理と洗濯 第12回 被服の取扱いと表示 第13回 被服の廃棄とリサイクル 第14回 被服と現代社会の諸問題 第15回 未来の衣生活について考える、期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題を出すので積極的に取り組むこと。						
授業方法	講義、DVD、演習						
評価基準と評価方法	平常点（受講態度、ワークシート記入状況）：40%、試験：60%						
教科書	『生活科学テキストシリーズ 衣生活学』佐々井 啓・大塚美智子 編著（朝倉書店）						
参考書	随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	青谷 実知代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
教科書							
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	奥井 一幾						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
教科書							
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	楠木 新						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
教科書							
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	長谷川 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
教科書							
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	花田 美和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練をテーマとしている。						
授業の概要	都市生活学科の1年生が、大学で学ぶことの意義を自覚し、高校と異なる授業への円滑な移行と、新たに学ぶ「都市生活」に関する認識、洞察を深めるための基礎訓練を目的とする。内容は、図書館における資料収集の方法、コンピュータを用いた資料収集の方法、フィールドワークを通じたデータの収集、レジメの作成、発表技術など、大学での学びのための知識や技術の修得である。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館やインターネットなどを活用して、課題やテーマに関連した情報を収集することができる。 ・学科での学びの基礎となる、レポート作成及びプレゼンテーション技法の基本的なスキルが身についている。 ・フィールドワークに主体的に取り組むことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとキャンパス探検 2. 図書館の使い方Ⅰ、新入生オリエンテーションの反省と来年度の計画 3. 図書館の使い方Ⅱ、大学での学び方 4. 文献資料収集・整理の方法 5. 資料の読み方 6. 引用・参考文献の書き方 7. レポートの構成 8. レポートの書き方Ⅰ（資料収集と検索方法の具体） 9. レポートの書き方Ⅱ（論理構造と結論） 10. プレゼンテーションの仕方（自分の考えを他人に伝える） 11. プレゼンテーションの仕方（レジメの作成） 12. プレゼンテーションの仕方（口頭発表） 13. フィールドワークⅠ（神戸市内での地域情報検索） 14. フィールドワークⅡ（神戸市内での地域資料収集・インタビュー） 15. 夏休みの課題説明と基礎演習Aの総括 						
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備、フィールドワーク準備						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価						
教科書							
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	青谷 実知代																															
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 2. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</p> <p>各教員のテーマ(仮)：花 田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥 井「生活経営入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3～6回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>7～10回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>11～14回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ(仮)：青 谷「マーケティング入門」 楠 木「ビジネス入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3～8回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>9～14回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p>								UL①	UL②	UL③	3～6回	花田	長谷川	奥井	7～10回	奥井	花田	長谷川	11～14回	長谷川	奥井	花田		UB①	UB②	3～8回	青谷	楠木	9～14回	楠木	青谷
	UL①	UL②	UL③																													
3～6回	花田	長谷川	奥井																													
7～10回	奥井	花田	長谷川																													
11～14回	長谷川	奥井	花田																													
	UB①	UB②																														
3～8回	青谷	楠木																														
9～14回	楠木	青谷																														
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価																															
教科書																																
参考書																																

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	奥井 一幾																															
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 2. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</p> <p>各教員のテーマ(仮)：花田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥井「生活経営入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3～6回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>7～10回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>11～14回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ(仮)：青谷「マーケティング入門」 楠木「ビジネス入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3～8回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>9～14回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p>								UL①	UL②	UL③	3～6回	花田	長谷川	奥井	7～10回	奥井	花田	長谷川	11～14回	長谷川	奥井	花田		UB①	UB②	3～8回	青谷	楠木	9～14回	楠木	青谷
	UL①	UL②	UL③																													
3～6回	花田	長谷川	奥井																													
7～10回	奥井	花田	長谷川																													
11～14回	長谷川	奥井	花田																													
	UB①	UB②																														
3～8回	青谷	楠木																														
9～14回	楠木	青谷																														
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価																															
教科書																																
参考書																																

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	楠木 新																															
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 2. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</p> <p>各教員のテーマ(仮)：花田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥井「生活経営入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3～6回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>7～10回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>11～14回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ(仮)：青谷「マーケティング入門」 楠木「ビジネス入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3～8回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>9～14回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p>								UL①	UL②	UL③	3～6回	花田	長谷川	奥井	7～10回	奥井	花田	長谷川	11～14回	長谷川	奥井	花田		UB①	UB②	3～8回	青谷	楠木	9～14回	楠木	青谷
	UL①	UL②	UL③																													
3～6回	花田	長谷川	奥井																													
7～10回	奥井	花田	長谷川																													
11～14回	長谷川	奥井	花田																													
	UB①	UB②																														
3～8回	青谷	楠木																														
9～14回	楠木	青谷																														
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価																															
教科書																																
参考書																																

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	長谷川 誠																															
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 ・2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 2. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</p> <p>各教員のテーマ(仮)：花田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥井「生活経営入門」</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3～6回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>7～10回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>11～14回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ(仮)：青谷「マーケティング入門」 楠木「ビジネス入門」</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3～8回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>9～14回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p>								UL①	UL②	UL③	3～6回	花田	長谷川	奥井	7～10回	奥井	花田	長谷川	11～14回	長谷川	奥井	花田		UB①	UB②	3～8回	青谷	楠木	9～14回	楠木	青谷
	UL①	UL②	UL③																													
3～6回	花田	長谷川	奥井																													
7～10回	奥井	花田	長谷川																													
11～14回	長谷川	奥井	花田																													
	UB①	UB②																														
3～8回	青谷	楠木																														
9～14回	楠木	青谷																														
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価																															
教科書																																
参考書																																

科目区分	都市生活学科専門教育科目																															
科目名	基礎演習B																															
担当教員	花田 美和子																															
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0																									
授業のテーマ	本演習は、都市生活学科に隣接する諸分野の入門的な内容を各教員のローテーション形式による講義の中で学ぶ中で、「都市生活」に関する認識、洞察をより一層深めるための基礎訓練をテーマとしている。																															
授業の概要	基礎演習Aに引き続き、本学科で学ぶ内容を概観できるよう、生活科学、社会生活、社会システム、生活行動などに対する基礎知識や調査あるいは演習の基礎を学ぶことを目的とする。家族や生活を取り巻く諸環境について導入的な解説を行い、多様な演習を通じて、本学科で学ぶ上で必要となる基礎を養う。これによって、本学科へのより高い関心を促し、自分の進路までを視野に入れながら、本学科での学ぶための意欲や基礎力を養っていく。																															
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各領域に対しての関心意欲をもつことができる。 2年次以降、本学科で学ぶための基礎的・基本的な知識と技能を習得している。 																															
授業計画	<p>1. 夏休みの課題報告Ⅰ（神戸フィールドワークレポートの発表） 2. 夏休みの課題報告Ⅱ（神戸フィールドワークレポートについてのディスカッション） 3～14：ローテーション形式の演習下記の表に従って行う。 （○数字はクラス番号を表し、名前は担当者を表す）</p> <p>各教員のテーマ(仮)：花田「衣生活入門」 長谷川「キャリア入門」 奥井「生活経営入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UL①</td> <td>UL②</td> <td>UL③</td> </tr> <tr> <td>3～6回</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> </tr> <tr> <td>7～10回</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> <td>長谷川</td> </tr> <tr> <td>11～14回</td> <td>長谷川</td> <td>奥井</td> <td>花田</td> </tr> </table> <p>各教員のテーマ(仮)：青谷「マーケティング入門」 楠木「ビジネス入門」</p> <table border="0"> <tr> <td></td> <td>UB①</td> <td>UB②</td> </tr> <tr> <td>3～8回</td> <td>青谷</td> <td>楠木</td> </tr> <tr> <td>9～14回</td> <td>楠木</td> <td>青谷</td> </tr> </table> <p>15. 合同基礎演習 次年度の学びへ向けて</p>								UL①	UL②	UL③	3～6回	花田	長谷川	奥井	7～10回	奥井	花田	長谷川	11～14回	長谷川	奥井	花田		UB①	UB②	3～8回	青谷	楠木	9～14回	楠木	青谷
	UL①	UL②	UL③																													
3～6回	花田	長谷川	奥井																													
7～10回	奥井	花田	長谷川																													
11～14回	長谷川	奥井	花田																													
	UB①	UB②																														
3～8回	青谷	楠木																														
9～14回	楠木	青谷																														
授業外における学習（準備学習の内容）	資料収集、プレゼンテーション準備																															
授業方法	演習																															
評価基準と評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）による総合評価																															
教科書																																
参考書																																

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	社会調査論						
担当教員	佐々木 洋子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会調査の理論や技法を学び、実際の調査が出来るようになるための基礎的事項を解説する。これまでの社会調査史をたどりながら、実際の調査を題材として、社会調査の意義、用途を解説する。さらに資料の収集、調査の設計から、現地調査の実施の方法、データの収集と分析、報告書の作成までの一連の流れを、量的・質的調査の双方について概説する。また社会調査の全過程における調査倫理について理解をはかる。						
授業の概要	社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する。国勢調査や官公庁統計、世論調査、マーケティングリサーチなどの実例を基に、社会調査が我々の社会でどのように行われ、またその結果がどのように活用されているのかということを理解する。次に、社会調査史を振り返り、これまでに行われてきた調査の目的や種類などを検討し、これまでに生じてきた方法論的問題や倫理的問題を紹介する。それを踏まえて最終的には、実際に調査を行う際のデータ収集方法から分析までの諸過程に関する基礎的な知識と技術を修得させる。						
到達目標	社会調査の基礎的な理論や技法を習得し、実際に社会調査ができる。また、公表された社会調査結果を読み解くことができる。						
授業計画	第1回 社会調査の意義と用途 第2回 社会調査の歴史 第3回 社会調査のうそ 第4回 問題意識の明確化 第5回 関連データ収集 定量データと定性データ 第6回 概念・指標・変数 第7回 仮説構成とモデルづくり 第8回 実査と調査倫理 第9回 調査の種類と実例Ⅰ 調査目的別 (学術調査・マーケティング調査・官公庁統計・世論調査) 第10回 調査の種類と実例Ⅱ 調査時点別 (クロスセクションサーベイ・継続調査・パネルサーベイ) 第11回 調査の種類と実例Ⅲ 調査地点別 (地域調査・全国調査・国際比較調査) 第12回 量的調査と質的調査 第13回 統計調査と事例研究法 第14回 二次データの利用 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	講義中に紹介する社会調査およびテレビ、新聞、インターネットなどで見かける社会調査について調べること。						
授業方法	講義形式で行う。また、一部グループワークを行うことがある。						
評価基準と評価方法	授業内課題 (30%) 期末テスト (70%)						
教科書	指定しない。						
参考書	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編, 2013 『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』 ミネルヴァ書房 9784623066544 轟亮・杉野勇編, 2013 『入門・社会調査法 [第2版] ——2ステップで基礎から学ぶ』 法律文化社 9784589034892 その他、随時紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生涯発達論						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	発達段階をととしたヒトの身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。						
授業の概要	発達段階をととした人間の身体の仕組みと心理社会的成長を中心に考察する。人間の発生時における遺伝によって子供へ受け継がれる形質、出生後の脳や感覚器官の発達、認知機能の心理生理的発達と脳の変化、社会性の心理的発達、成人し結婚する際の心理的課題、自らが親になる際の母性や父性の出現と役割、のように発達段階をととして獲得していく生理的変化、身体の構造や心理社会的スキルを知る。常に成長する人間を生物として考える目を養う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの遺伝、脳のはたらき、発達に関する基本的な用語の説明をすることができる。 2. 発達段階における心理社会的スキルを行動面と機能面から解説することができる。 3. 遺伝、結婚、発達における行動の事例を挙げ、それについて自分の考えを述べることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の紹介 2. 遺伝と両親 3. 遺伝と行動 4. 遺伝と環境 5. 脳の発達 6. 感覚の発達 7. 認知の発達 8. 脳の発達とストレス 9. 性差 10. 共感 11. 意欲、動機づけ 12. 幸福感 13. 幸福感と結婚 14. 父性・母性 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回講義のテーマに関して自分の身の回りにある疑問を言語化する。						
授業方法	講義形式で授業を実施する。教室内でできる簡単な実験や演習も含まれる。						
評価基準と評価方法	小レポート(40%)、試験(60%)						
教科書	プリントを適宜用いる。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	食生活論						
担当教員	武智 多与理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。						
授業の概要	『食』を食生活と健康づくりの観点から解説する。本講義は、2年次生以降、食の学びを深めるために基盤となる科目として位置付ける。まず、食品の持つ「食生活と栄養（5大栄養素とその他の成分）」について、化学的・生化学的視点から概説する。次に、「食品の機能」、「食生活と調理」、「食生活と食文化」、「食生活と安全」、「食生活と環境」などについて解説する。健康とは何か、そして、健康な生活を送るために食生活はどうあるべきかを考えられるようになることを目的とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養についての問題に回答できるようになる。 ・食生活、調理、食文化についての問題に回答できるようになる。 ・食生活と健康についての問題に回答できるようになる。 						
授業計画	第1回 人の一生と食事 第2回 食生活と栄養（糖質・脂質） 第3回 食生活と栄養（タンパク質・ビタミン） 第4回 食生活と栄養（ミネラル・水） 第5回 食生活と食品の成分（アルコール、嗜好品、免疫力） 第6回 食生活と調理 第7回 食生活と食文化（米文化と小麦文化） 第8回 食生活と食文化（食事様式、マナー、旬） 第9回 ライフサイクルと食生活（成長期） 第10回 ライフサイクルと食生活（成人期以降） 第11回 体のリズムと食生活 第12回 食生活と安全 第13回 食生活と環境 第14回 食育の意義 第15回 家庭や地域における食育の推進、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容について予習、復習を行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業における発表など10%、課題40%、期末テスト50%						
教科書	「食生活と健康づくり」加藤秀夫・三好康之・鈴木 公・泉公美子編 化学同人 適宜プリントを配布						
参考書	特になし						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	住生活論						
担当教員	平田 陽子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	住居に関する基礎的知識の修得と現代の住まいに関する課題の理解						
授業の概要	<p>私たちが毎日暮らしている住居に関する入門科目として、住居の基本概要、および現代の住まいに関する重要事項である高齢者居住、子どもの生活空間、住まいの再生、超高層住宅などを理解する。</p> <p>現代日本の都市生活において、多くの人々が住まいの狭小性、老朽化、設備の不備、バリアあるいは周辺環境などでの不満や不安感を抱いている。また、先の阪神大震災が示したように、住まいの問題は多様で山積している。このような住まいに関して、基礎的知識や意味・重要性を概説し理解を深める。内容は、住まいとはなにか、その歴史と現代住宅の多様性、家族の変容、高齢化、環境共生、あるいは衣や食なども視野に入れながら、住まいの実態・今後のあり方について、最近のトピックスを交えながら講義を進める。</p>						
到達目標	日本の住まいの特徴、住居の歴史、住居の間取り、現代の課題などの基礎項目について、自分の言葉で語れるようになること						
授業計画	第1回 オリエンテーション、すまいの色々 第2回 日本の住まいの特徴 第3回 住居の歴史（古代～中世まで） 第4回 住居の歴史（近世） 第5回 住居の歴史（近代） 第6回 間取りの特徴 第7回 間取りの制作（自宅の間取り図作成）＋小テスト1 第8回 高齢者の生活空間 第9回 子どもの生活空間 第10回 戸建て住宅の問題 第11回 集合住宅の問題 第12回 高層居住の問題 第13回 公的賃貸住宅の再生 第14回 マンションの大規模修繕と再生 第15回 学生からの自宅再生提案＋小テスト2						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：新聞やテレビで報道されている住宅やまちづくりに関するニュースに注意を払い、興味を持った記事についてはピックアップをしておくこと。（目安とする学習時間：30分～1時間） 授業後学習：配布されたプリントをよく読み、授業内容の重要事項を確認しておくこと。（目安とする学習時間：30分～1時間）						
授業方法	講義を中心とするが、課題について受講生から発表をしてもらう機会をもうける。						
評価基準と評価方法	平常点（30%）、小テスト（20%×2回）、レポート（30%）						
教科書	特になし						
参考書	湯川聡子・井上洋子著、「住居学入門」、学芸出版社、ISBN4-7615-2237-2						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活学概論						
担当教員	奥井 一幾						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	人間の生活について総合的に学ぶ						
授業の概要	本講義は、人間の生活について、その変化のメカニズムや生活を捉える方法について知り、本学科で学ぶ上での基礎的な知見を得ることを目的とする。前半は、「生活学」や「家政学」の学問体系について概観し、現代の都市的生活様式がどのように形成されてきたかを知る。後半は、生活の中で重要な家計、生活時間、家事労働等について学び、現代生活の具体的特徴を知る。さらに、死別に伴う悲嘆について考えることから、一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、生活を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活学・家政学の成り立ちや現状について理解している 個人のライフコースにおける諸課題が説明できる 現代の多様な生活課題に対して、自分なりの解決策を考え提示することができる 						
授業計画	第1回 生活学を学ぶ意義とこれまでの学びの振り返り 第2回 生活学・家政学の成立と変遷 第3回 戦後の生活変化と家族形態の変遷 第4回 生活と家族をめぐる社会的課題（人口動態、各種統計から） 第5回 生活と家族をめぐる身近な課題（生活・家族をめぐる具体的事例から） 第6回 ジェンダーとセクシャリティ 第7回 恋愛とパートナー選択 第8回 生活と生活自立 第9回 ライフイベントとライフプランニング 第10回 生活時間と女性の就業 第11回 消費生活と家計 第12回 情報社会と消費生活 第13回 加齢と高齢期の生活 第14回 死別と悲嘆 第15回 生活学の将来展望と試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：自分の身近な生活環境について普段から関心をもつこと。 授業後：授業で学んだ内容を復習する手書きのノートを作成すること。その際に理解不足の点を補いながらまとめるように心がけること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験(60%)、ワークシート記入状況、受講マナーなど(40%)により総合的に評価する。						
教科書	授業毎に資料を配布する。						
参考書	日本家政学会家政教育部会編. 家族生活の支援-理論と実践-. 2014. 建帛社. (ISBN: 978-4-7679-6518-5). ¥2,200(税別). 各自高等学校で使用していた家庭科の教科書(及び資料集).						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活行動論						
担当教員	鳥居 さくら						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活における人の行動の心理学的考察						
授業の概要	日常生活のさまざまな場面における人間の行動とその心理メカニズムについて理解することを目的とする。知覚心理学、認知心理学、社会心理学、人間工学といった心理学と心理学関連領域の基礎的な概念を学ぶとともに、衣、食、住、ストレスや対人関係などの日常の生活行動を取り上げ、具体的な事例をとおしてそれらの心理的な意味やメカニズムを考える。この講義をとおして人間の感覚と行動の関係について考える力を養うことが期待できる。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実生活に関わる心理学の考え方、研究を説明できる。 2. 図表からわかることを文章で表現できる。 3. 行動と科学の結びつきを自分の体験に照らし合わせて表現できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 感覚の心理学的意味 3. 行動と感情 4. 行動と環境 5. 知覚(1)-触覚- 6. 知覚(2)-視覚- 7. 対人魅力 8. 発達 9. 人格 10. 認知 11. 感情 12. 人間工学 13. 医療分野と心理学 14. 免疫と心理学 15. まとめ 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習： 次回の授業の内容に関する疑問を言語化する。 授業後学習： 実際の生活の中でどのように生かすことができるか、各授業の内容を自分にあてはめて考える。						
授業方法	主に講義形式						
評価基準と評価方法	授業態度(20%)、小レポート(20%)、試験(60%)						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる。 ・関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる。 ・ヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる。 ・母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し実際に計算できるようになる。 						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ① 第15回 授業のまとめ②						
授業外における学習(準備学習の内容)	各自で予習・復習を必ず行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活統計学						
担当教員	前田 直哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	調査で収集したデータをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学の知識を習得することを目的としている。授業は、確率論の考え方の概説から始め、記述統計量の算出、度数分布表やクロス集計表の作成などからはじめ、統計的検定の方法について解説する。すべての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながらわかりやすい解説を心がける。						
授業の概要	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を修得することを目的としている。授業は確率論の考え方の概説からはじめ、基本等計量の算出、さまざまな検定と推定に関する理論、質的データの解析方法などに関する理論と技法の説明へつなげる。さらに、これらの知識を基にして、実際に行われた調査結果あるいは調査資料を用いて、平均や比率の検定、独立性の検定、クロス表分析、相関係数の算出、回帰分析などを行う。全ての授業を通じて、豊富な実例を取り上げながら分かりやすい解説を心がける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や調査で得られたデータの基礎的な統計手法を修得することができる。 ・関数電卓もしくはExcelを用いて、平均・分散・標準偏差・標準誤差・相関係数等の基本的な統計量の計算ができるようになる。 ・ヒストグラムなどのグラフ表示ができるようになる。 ・母平均の95%信頼区間・統計的仮説検定(平均値の差の検定、無相関の検定、度数の検定)とその考え方を理解し実際に計算できるようになる。 						
授業計画	第1回 統計データと尺度水準：個々のデータの統計的評価 第2回 度数分布表とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムの作成 第3回 代表値：平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値 第4回 散布度：分散・標準偏差・平均偏差・4分位範囲 第5回 データの標準化：データから単位の影響を取り除く 第6回 共分散と相関係数：散布図・相関係数・順位相関 第7回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布①：母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第8回 統計的推定の一般手順—母集団と確率分布②：母集団と標本の関係・点推定・区間推定 第9回 統計的検定の一般手順：仮説と対立仮説・両側検定と片側検定・有意水準と棄却域 第10回 平均の差の検定：母平均の検定・母平均の差の検定 第11回 分割表の検定・ χ^2 検定：独立性の検定 第12回 相関係数の検定：相関係数の推定と無相関の検定 第13回 ノンパラメトリック検定：2組のデータの比較・ウィルコクソン検定 第14回 授業のまとめ① 第15回 授業のまとめ②						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自で予習・復習を必ず行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)						
教科書	特に使用しない。適宜、資料を配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎I						
担当教員	古濱 裕樹						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学問的専門領域のための生物学と化学						
授業の概要	生活の科学基礎 I は、生活科学を学ぶための入門として生物学、化学の基礎的知識を身につけることを目的とする。複雑、多様化した現代社会におけるモノと人との関わりを中心とした生活の現状を理解し、問題を見出し、解決するための基礎的な知識、技術、態度を養う。人が健康で質の高い生活するにはどのような自然科学の知識が必要か生活を取り巻く自然環境にも目をむけ、生活の衛生、モノの機能などの科学的な研究ができる力を養う。						
到達目標	レベルⅠ：化学や生物が生活に役立てられることを理解する。 レベルⅡ：衣食住に関わるモノや事象を科学的な眼で見ることができる。 レベルⅢ：科学的視点によって、モノの効率的な利用方法を提言したり、モノ自体を改良したりすることができる。						
授業計画	第1回 生物学や化学をなぜ学ぶのか 第2回 生物とは ～共通性と多様性 第3回 生物がもつ共通する物質 第4回 すべての生物がもつ細胞 第5回 生体エネルギーと代謝 第6回 遺伝情報と遺伝子・ゲノム 第7回 細胞の分裂 ～生殖と発生 第8回 ヒトの体内環境、健康と病気 第9回 植物と環境応答 第10回 生物進化と多様な生物 第11回 生態系と環境 第12回 バイオテクノロジー 第13回 高分子化学 第14回 エネルギー 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習：新書版である生物学の教科書について、次回の授業範囲を一読しておく。 復習：授業で触れた化学図録の範囲を読み直し、身の回りのモノや事象に照らし合わせ、生じた疑問を講義ノートに記述する。						
授業方法	講義 新書版である生物学の教科書に沿って授業を進める。同時に、化学の図録を用いて、化学の解説を行う。						
評価基準と評価方法	平常点 60%（毎回の授業ノートの記述内容。復習における疑問の記述も含める。） 試験 40%						
教科書	カラー図解でわかる高校生物超入門（サイエンス・アイ新書）、芦田 嘉之(著)、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:978-4-797-38219-8 三訂版 フォトサイエンス化学図録、数研出版編集部（編）数研出版、ISBN：978-4-410-27315-5						
参考書	カラー図解でわかる高校化学超入門（サイエンス・アイ新書）、齋藤 勝裕(著)、ソフトバンククリエイティブ、ISBN:978-4-797-36246-6						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活の科学基礎II						
担当教員	前田 直哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	社会生活の中で消費者はどのように行動し、どのような役割を果たしているのでしょうか。より豊かな社会生活を営んでいくために必要になる消費者行動の基礎知識と現実問題について学ぶ。						
授業の概要	生産、流通、消費について、その実態を明らかにするとともに、いかにしてこれを生活の豊かさの向上に結びつけるかを考える。また、衣・食・住生活の消費を考え、生活者として現代の消費社会における消費者と事業者の情報力および交渉力格差によって生ずる消費者問題の諸相を把握し、問題解決の方向性を探る力を身につける。さらに、法学、経済学、社会学などの社会科学の視点から現実の問題を分析できる力を醸成する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者行動を社会科学の枠組みの中で捉え、その基礎知識を理解できるようになる。 ・理論上の消費者の最適な行動を学ぶだけでなく、実際、どのような消費者行動を取れば、より豊かな社会生活を営めるかを考えることができるようになる。 ・消費者問題の実態を学ぶことを通じて、社会科学の枠組みの中でその問題解決策としてはどのようなものがあるかを考えることができるようになる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス～論理的思考とデータを用いた議論 第2回 消費者と経済生活：消費者の経済的役割、家計の収入と支出、フロートとストック 第3回 親と子の経済関係：子の教育・養育、親の扶養、介護と相続 第4回 妻と夫の経済関係：結婚生活と家計、世帯と家計、妻と夫の家計・資産 第5回 家計収支と家計簿分析：家計簿の項目、貯蓄を計画的に行うためのポイント 第6回 ライフサイクルと資産・負債：ライフステージごとにかかる費用、生涯収支 第7回 キャッシュフロー表分析①：キャッシュフローの定義と作成の意義 第8回 キャッシュフロー表分析②：収入と可処分所得、具体的な可処分所得の計算 第9回 第1～8回のまとめと中間試験 第10回 消費者と衣食住：消費社会と食・衣・住生活 第11回 未成年者と消費者問題：子どもの消費生活、子どもの消費者トラブル 第12回 カード社会と消費者信用：消費者信用の仕組み、カード社会の多重債務問題 第13回 消費者問題と法：契約社会と消費者、消費者契約と民事法・特別法 第14回 格差社会と奨学金：経済格差、授業料負担、学資・教育ローン 第15回 奨学金問題と法：奨学金返還問題、信用履歴、返済滞納に対する法的措置						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で予習・復習を必ず行うこと。 ・課題は授業時間内だけでなく、授業時間外も出すので、グループワークを大切にすること。 ・課題に関する資料を調べる際には、基本的に図書館を利用すること。 						
授業方法	講義とグループ学習による問題演習						
評価基準と評価方法	授業時間中・授業時間外の課題(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%)						
教科書	特に使用しない。適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	生活福祉論						
担当教員	奥井 一幾						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活福祉と社会生活における様々な事象との関わりから、生活福祉の意義や役割について学ぶ。						
授業の概要	価値観が多様化する現代社会において、一人ひとりが尊厳をもって自分らしいライフスタイルを維持し人間らしい質の高い生活を実現していくために、生活上の困難や問題が生じたときには、解決していくための援助や支援が社会のシステムとして必要になる。社会保障の仕組みを学ぶとともに、さまざまなライフスタイルを持った個人と家族にとって、ライフコースのそれぞれの時点での生活者の視点からの支援を考え、今日の格差社会や貧困層拡大といった問題を射程に入れつつ、人々の福祉ニーズをとらえ生活福祉の活動に必要な方法・技術を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の生活福祉における諸問題を理解し、その概要を説明することができる ・それらの諸問題に対して、専門用語を用いながら自らの考えや解決策を述べることができる 						
授業計画	第1回 ガイダンス（講義形態の確認と生活福祉を「学ぶ」意義） 第2回 生活福祉の定義をもとめて 第3回 健康な生活習慣と生活福祉 第4回 生活福祉を支えるコミュニケーション 第5回 コミュニケーションの限界 第6回 公共と生活福祉 第7回 集団心理と生活福祉 第8回 ストレスと生活福祉 第9回 社会保障と生活福祉 第10回 援助行動と生活福祉 第11回 人間の尊厳を考える 第12回 メディアと生活福祉 第13回 いのちと生活福祉 第14回 自らの生活福祉を展望する 第15回 終講課題と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：各テーマについて自分の考えを整理しておくことが望ましい。 授業後：専門用語については、レポートで理解度を問うので必ず復習を行うこと。各テーマについて発展的な学習を行うことが望ましい。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	終講課題(40%)、授業ワークシートの記入状況や、受講態度などの平常点(60%)などから総合的に評価を行う。						
教科書	必要に応じて資料を配布する。						
参考書	講義の中で紹介する。						

科目区分	都市生活学科専門教育科目						
科目名	都市生活論						
担当教員	江 弘毅						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現在進行形の都市生活から「まち」「都市」「都会」とはなにかを概観する						
授業の概要	現在、都市をめぐる環境は、インナーシティの問題に加え、商店街の衰退やオールドニュータウン化が進む一方で、都心のマンションラッシュなど都心回帰も始まっている。神戸をはじめとする都市部では、コレクティブハウジングなど新しい住まい方も生まれ、また、行政と協働で生活マナー向上の取り組みも始まっている。本講義では、都市の成り立ちも含めたハード面や、生活上のソフト面を解説し、まちに関心をもってもらえるような具体的な事例を取り上げながら、これからの都市生活の課題や展望について考えていく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 近代～現在の都市生活を知り、まちづくりに参画することができる。 (2) 高度情報化社会の中のまちを情報化、記述し、都市情報を発信することができる。 (3) まちづくりのための具体案を出すことができる。 						
授業計画	第1回 まちを読み解く 第2回 京都・大阪・神戸の街 第3回 街と都会。街らしさと地方性 第4回 まちのでき方。大阪アメリカ村・南船場・堀江を例に 第5回 インターネット時代と都市空間 第6回 モバイル、コンビニ化される街 第7回 都市消費生活、消費者と匿名性、生活者と実名性 第8回 情報化、記号化、広告化される街 第9回 消費情報のなかの「都市」「都会」 第10回 「ファスト風土化」される街と商店街 第11回 街場のコミュニケーション 第12回 都市生活のなかの自己決定、自己責任 第13回 「自分の街」と居場所 第14回 コミュニティとしての都市、都会、街。ネットワーク 第15回 「わたし」の都市生活について書く						
授業外における学習（準備学習の内容）	あらかじめ授業計画のテーマについて、自分なりの考察を深めておくこと（学習時間の目安：1時間）。街（例えば神戸）についての具体的な情報を収集し、それに応じて街を歩き、都市空間について理解すること（学習時間の目安：1時間）。						
授業方法	講義とその都度の質問。 毎回、レジュメや資料を配布します。 講義についてのリアクションペーパーを書いてください。						
評価基準と評価方法	期末試験50%。各回提出のリアクションペーパー30%、質問応答（コール&レスポンス）、授業中の発表発言20%。						
教科書							
参考書	『「街的」ということ お好み焼き屋は街の学校だ』、江 弘毅著、講談社現代新書 ISBN-10: 4061498568 『街場の大阪論』江 弘毅著、バジリコ ISBN-10: 4862381316、新潮文庫 ISBN-10: 4101319219 『広告都市・東京 その誕生と死』北田暁大著、廣済堂出版 ISBN-10: 433185017X 『アメリカ大都市の死と生』、ジェーン・ジェコフス著、鹿島出版会 ISBN-10: 4306051188 『愛するということ「自分」を、そして「われわれ」を』ベルナル・スティグレル著、新評論 ISBN-10: 4794807430						